②宝鏡奉斎の神勅
吾が児、此の宝鏡を視まさむこと、当に吾を視るがごとくすべし。与に床を同じくし殿を共にして、斎鏡と為す可し。

③斎庭の稲穂の神勅
吾が高天原に所御す斎庭の穂を以て、亦吾が児に御せまつるべし。

## 月次祭

月次祭は、月ごとの報賽のために行う祭祀で、古くは神祇官に於いて六月十一日と十二月十一日に行われた祭祀である。（本来は毎月行われるべきものであった。）

また、伊勢神宮では、六月十五日～十七日までと、十二月十五日～十七日までの年二回行われ、神宮五大祭の一つとして重要視されている。

当社では、毎月一日午前九時から執行している月ごとの恒例の祭祀。但し、一月は年始祭を行うため執行しない。

この祭典は、平成十年から新たに行っており、月の当初にあたり、皇室の弥栄と国家の安泰、氏子の平安を祈る祭祀である。

### 神宮五大祭

神宮祭祀の内、とりわけ重要な祭祀。

祈年祭
　2月17日
月次祭
　6月15日～17日
神嘗祭
　10月15日～17日
新嘗祭
　11月23日
月次祭
　12月15日～17日

# 社殿

社殿とは、本殿、幣殿、拝殿を始めとする神社の中心的建物の他、社務所、神饌殿、手水舎、神馬舎など宗教活動に必要な建物を指す。

宗教法人法では、社殿のほか工作物を含め境内建物として定義されている。

入母屋造りの本殿

## 本殿

神社の社殿の中で最も重要なものは、神霊が鎮まる本殿である。

古代では、本殿を建築して神霊を祀るような事はなされず、高い山や大きな岩、滝などに鎮まる神霊や、囲いをした聖域に榊を立て神を招霊し、祭祀を行っていたが、次第に常時神霊を鎮める本殿を建築するようになった。

当初は伊勢神宮の本殿のような簡素な神明造りの様なものであったが、仏教の影響などを受け、様々な様式の本殿が造られるようになった。

本殿屋根（檜皮葺き）葺き替え竣工奉祝祭（大正15年）





当社の本殿は、記録によると天文四年（1535）に屋根葺き替えを行っているのが初見である。

その後、文禄二年（1593）に高畠市正貞政が大檀那、安原備中守が願主となり八幡神社本殿と共に改築を行っている。慶長十九年（1614）には、安原備中守、主税守、和泉守が大檀那となり、屋根の葺き替えが行われている。

更に、享保四年（1719）九月に改築が行われ、現在に至っている。

東太田家文書によると、元文元年（1736）には屋根を板厚二分（六ミリ）の栃葺きとし、箱棟木を銅板包みとしている。

文化三年（1806）には千木と鰹木が付けられた。建立当初の屋根は栃葺きであったが、千木と鰹木を取り付けた際に檜皮葺きに改めたと思われる。

その後、大正十四～十五年にかけての葺き替えを最後に、経費と耐用年数を考慮して昭和四十六年五月銅板葺きの屋根に改めた。施行は株式会社児島工務店があたった。

また、明治二十七年拝殿等の改築に合わせ、鶴崎神社本殿並びに八幡神社本殿を一間七合、後方へ移設した。

建築様式は入母屋造りで、建坪は九、五一坪。建築材は栂、欅等を使用し、周囲の四面全てに桝組を施した近郷希で荘厳な本殿は、塩飽大工の作といわれている。

鶴崎神社・八幡神社両社本殿屋根檜皮葺き替え上棟祭余興主催者（大正15年5月15日）

千木取付工事（昭和46年）

改築前の檜皮葺きの本殿（昭和46年）